



京セラ株式会社 2023 年 3 月期 上期 決算説明会  
(2022 年 10 月 31 日開催)

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. (中表紙) 1. 2023 年 3 月期上期 決算概要>

<2. 2023 年 3 月期上期 決算概要 (1) >

当上期は、5G や半導体関連市場向け部品の売上拡大に向けて、過去数年にわたり取り組んできた増産投資が寄与したことに加え、円安による押し上げ効果もあり、前年同期に比べ増収増益となりました。

売上高は、上期としては初めて 1 兆円を捉え、前年同期を 16%上回る 1 兆 122 億円となり、過去最高を更新しました。

利益については、増収及び円安の効果があつたものの、原材料等の価格高騰やコミュニケーション事業での販売減、並びに訴訟に関する一時費用約 70 億円を計上したことにより、前年同期と比べ微増となりました。

<3. 2023 年 3 月期上期 決算概要 (2) >

設備投資額及び減価償却費は、高需要な部品の生産能力拡大のための設備導入や新棟建設等により増加しました。また、研究開発費は、新規事業の創出に向けた開発を推進したことにより増加しました。

<4. 2023 年 3 月期上期 事業セグメント別売上高>

こちらのスライドは事業セグメント別の売上高です。当上期は全てのセグメントで 2 桁の増収となりました。

<5. 2023 年 3 月期上期 事業セグメント別利益>

こちらのスライドは事業セグメント別の利益です。「ソリューション」は減益となったものの、好調な部品需要を捉え、特に「コアコンポーネント」の利益が大幅に増加し、全体の増益を牽引しました。続いて、各セグメントの状況を前年同期と比較してご説明します。

<6. 2023 年 3 月期上期 事業セグメント別業績 (1) コアコンポーネント>

「コアコンポーネント」は、半導体関連部品事業において、5G などの情報通信市場向けにセラミックパッケージ及び有機基板の需要が増加したことに加え、産業・車載用部品事業において、半導体製造装置用ファインセラミック部品などの高付加価値製品の需要が増加したこ

とにより、増収となりました。利益は、増収に加え円安効果もあり大幅に増加し、利益率は15.5%へ向上しました。

#### <7. 2023年3月期上期 事業セグメント別業績 (2) 電子部品>

「電子部品」は、産業機器市場や自動車関連市場向けを中心にコンデンサなどの需要が増加したことに加え、円安も寄与し、増収増益となりました。

#### <8. 2023年3月期上期 事業セグメント別業績 (3) ソリューション>

「ソリューション」は、機械工具事業及びドキュメントソリューション事業において、主要製品の販売が増加したことに加え、円安効果もあり、増収となりました。

利益は、コミュニケーション事業において携帯電話端末の販売台数が減少したことに加え、各事業で原材料価格や物流コストなどが高騰した影響により、減少しました。

以上が当上期の概要です。続いて、通期業績予想についてご説明します。

#### <9. (中表紙) 2. 2023年3月期 業績予想>

##### <10. 2023年3月期 業績予想 (1) >

通期業績予想は、4月公表予想から変更はありません。

当上期の業績は、コミュニケーション事業が想定を下回ったものの、高収益な部品の売上拡大や円安の押し上げ効果もあり、概ね期初の想定範囲内で推移しました。下期については、原材料等の価格高騰の継続や景気の後退などが懸念されますが、半導体関連市場ではハイエンド領域を中心に引き続き高水準な需要が見込まれます。このような見通しに鑑み、グループ全体では期初予想を捉えられるものと考えています。

なお、平均為替レートについては対米ドルを134円に、対ユーロを137円に、それぞれ変更しています。

##### <11. 2023年3月期 業績予想 (2) >

設備投資額、有形固定資産 減価償却費、研究開発費についても4月公表予想から変更はありません。

##### <12. 2023年3月期 事業セグメント別売上高予想>

セグメント別の業績予想については、上期実績及び下期見通しを踏まえて修正しています。

「コアコンポーネント」及び「電子部品」は上方修正しました。特に半導体関連部品事業が期初予想を大きく上回る見通しです。一方、「ソリューション」は下方修正しています。機械工具事業やドキュメントソリューション事業は期初予想を上回る見通しですが、コミュニケーション事業は販売減を主因に下回る見通しです。

### <13. 2023年3月期 事業セグメント別利益予想>

利益につきましては、「コアコンポーネント」及び「電子部品」は、売上高同様、上方修正しています。一方、「ソリューション」は下方修正しています。各事業において、部材価格高騰等の影響を大きく受けるとともに、コミュニケーション事業においては、売上減を主因に損失となる見通しです。依然として不透明な事業環境ではありますが、引き続き受注獲得及び生産性向上に努め、業績予想の達成を目指します。

### <14. 2024年3月期以降の業績拡大に向けた取り組み>

続いて、来期以降の業績拡大に向けた取り組みについてご説明します。

スライド左側は研究開発への投資です。これまで鹿児島国分工場内に点在していた材料開発、分析技術、生産技術部門を集約し、新たに「きりしま R&D センター」として本年9月より稼働を開始しました。今後、連携強化により、セラミックパッケージなどの既存製品に加え、航空宇宙や医療ヘルスケアなどの新規分野の開発の加速化を図ります。

スライド右側は部品の増産に向けた投資です。鹿児島国分工場に新工場棟を建設し、中長期的に需要の増加が見込まれる小型大容量 MLCC の生産容量拡大を図ります。現在、建設を進めており、2024年5月に稼働開始予定です。

### <15. 株主還元>

最後に、株主還元についてご説明します。

当中間期の1株当たり配当金は、前年同期比10円増額の100円とさせて頂きました。年間配当金は期初予想から変更なく、前期比20円増配の200円を予想しています。引き続き業績拡大に努め、株主還元の向上を図ってまいります。

以上

#### **将来事象に関する注意事項**

当資料には、将来の事象についての2023年3月期上期決算説明会開催日（2022年10月31日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください (<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>)。